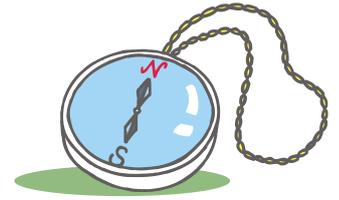


# 羅 針 盤

第 **20** 号

令和5年10月16日（月）



## ◆ 「天の時、地の利、人の和」

「天の時、地の利、人の和」この言葉は、中国の春秋戦国時代に生まれた言葉です。その語源となったのは、中国・戦国時代の儒学者であった孟子（もうし）の残した言葉や行動、思想が記されている言行録と呼ばれる書物『孟子』のなかにある『公孫丑（こうそんちゅう）』というくだりで、「天の時は地の利に如（し）かず。地の利は人の和に如（し）かず。」とあります。この言葉は、それ以来人々によく使われるようになり、日本では「天の時、地の利、人の和」という慣用句としてよく使われるようになりました。「天の時」は、天の与える機会を指していて、「地の利」は、有利な地理的条件のこと、ひいては地理的な条件が有利に働くことを意味しています。また、「人の和」は、人々が一致団結することを指し示した言葉です。「天の時、地の利、人の和」その言葉の意味は、「天の与える好機も土地の有利な条件には及ばず、また、土地の有利な条件も人々の強いつながりには及ばない」ということです。もう少し現代的にわかりやすく解釈をすれば、いくらチャンスがあったとしても、地力がなければチャンスを掴（つか）むことすらできない、そして、地力があっても一人では何もできない。周りの人との信頼関係があり、協力があってこそ始めて大きな成果が得られるといった意味合いとなります。つまりは、思うように事を進めるためには、何よりも人の和となる信頼関係を築きあげていくこと（良好な人間関係の構築）が最も大事なことであるというわけです。時代がどれほど変わりゆくものであったとしても、人と人とが互いに信頼しあえる関係づくりを築き上げていくことが何よりも大事なことに変わりはないはずで



## ◆ 近道はない

運動会では、たくさんの「一致団結」する姿を見ることができました。日差しが和らぎ、季節は秋へと変わりつつあります。収穫の秋、あるいは、実りの秋といった言葉を生徒の皆さんも聞いたことがあると思います。野菜や果物など、季節の味覚を感じる中で、しかしながら、思い通りに収穫がままならないのも野菜や果物です。野菜や果物を育てるには、根気と時間が必要です。勉強や部活動も、同じく根気と時間が必要なことは言うまでもないはずで

す。作物を収穫するためには、土を耕し、種を蒔いて、毎日欠かさずに水を与える必要があります。学習に置き換えると、何よりも基礎・基本が大切であるということです。また、害虫や雑草を取り除くこと、つまりは誘惑に打ち勝つことも必須の条件でしょう。肥料を与えることも必要であり、手間暇をかけて、ようやく作物を収穫することができます。どれか一つでも省いてしまうと収穫には辿り着くことはできないでしょう。近道はないのです。「学問に王道なし」ということです。基礎・基本をおろそかにすることなく、日常の積み重ねを大事にして、実り多き結果を得ることができる努力を怠らないようにしていきましょう。